



川俣小学校「学校だより」

輝くひとみ

令和元年12月20日(金) 第31号

教育
目
標

☆すすんで学ぶ子ども
☆思いやりのある子ども
☆ねばり強い子ども
☆たくましい子ども

発行者 校長 本名 武



縦割り班での活動

今週水曜のふれあいタイムは今年最後の縦割り班での活動でした。上学年を中心に、各班がみんなで楽しく活動できる集団遊びの内容を考え実行していました。フルーツバスケットにハンカチ落とし、ドッジボールに鬼ごっこなど、異年齢集団でふれあう時間を楽しみました。

子どもたちの遊ぶ光景を見て思い出すのは、小さい頃にあった「あぶらっこ」制度。

例えば、近所の広場で上学年だけでソフトボールをしているところに、誰かが1年生の弟を



連れて来たとして。1年生だけつまらなそうにポツンとしますので、打たせてやります。ピッチャーが近くによって、ゆっくりの球で。三振でなく四振などの特別なルールで。「その子、あぶらっこな。」という言葉に上学年のやさしさや思いやりがありました。そうして、あぶらっこたちは、ソフトボールのルールを覚え、打ったり投げたりする技能とともにその楽しさを知っていきます。誰もが、はじめはあぶらっこでした。そしてある日、「その子もう、あぶらっこじゃないから。」の6年生の声に、ちょっと誇らしげな、ちょっと一人前扱いされたような気持ちになるときが来るのです。陣取りや鬼ごっこなどもそうでした。近所のほとんどの家に子どもがいた頃、小さな子への思いやりや上級生への憧れなど、「あぶらっこ」の頃の子どもの中にそれはありました。いわゆる価値ある異年齢集団遊びは日常的に存在していました。あぶらっこ（見習い期間）、遠い昔からの子どもの知恵。



なわとびタイム

業間運動「なわとびタイム」では、意欲的に縄跳びに挑戦する子どもたちの姿を多く見かけます。できつつある技を一生懸命練習します。

隣を通過しようものなら「見てください。」の気合いのこもった声。冬休みも、持久跳びや種目跳びの記録や技を伸ばしていってほしいと思います。おうちの方の技も、けがをしない程度に子どもに見せてやってはいかがでしょうか。親子のいい交流の時間になると思います。



頭の体操



2年生算数科、先日の「授業の問題」です。

0～9までの10枚のカードのうち、4枚を使って、2番目に小さい数を作りましょう。

※ヒント：千の位に0はおけないから千の位は1のカード。